

図書だより ライブラリーニュース
Library News

平成 30 (2018) 年 1 月
府中市立府中第八中学校
図書室担当 粟谷千衣子

新しい年がスタートしました。晴天に恵まれたお正月でしたから、初詣に行った人も多いのではないのでしょうか。どんな願い事をしましたか。夢が叶うといいですね。寒い季節ですが、体調に注意して、元気に過ごしてください。そして、今年も図書室をたくさん利用してください。

ゆめ売の

金子みすゞ

年のはじめに
ゆめ売りは、
よいはつゆめを
売りにくる。

たからの船に
山のよう、
よいはつゆめを
つんでくる。

そしてやさしい
ゆめ売りは、
ゆめの買えない
うら町の、
さびしい子らの
ところへも、
だまってゆめを
おいてゆく。

『金子みすゞ童謡集 明るいはつゆめ』

JICA出版局より

12月の図書室 (開館日数 10日)

入館者数 587 人 (1日平均 58人)

貸し出し冊数 538 冊

	男子	女子	合計
1年生	56	123	179
2年生	118	147	265
3年生	49	94	143

学年毎の上位クラス					
1-G	49	2-B	62	3-A	43
1-A	44	2-F	49	3-D	17
1-F	34	2-E	33	3-B	16
		2-A	32	3-F	16

冬休み特別貸出の最終返却日は 1 月 19 日です。

また催促状を受け取って、返却していない人は至急返却してください。よろしくお願いします。

1月のこよみから

17日は阪神淡路大震災（防災とボランティアの日）

15日～21日 防災とボランティア週間

1995年1月17日早朝、午前5時46分神戸・淡路島など兵庫県南部をマグニチュード7.2の地震が襲い、6434人が亡くなり、負傷者は4万人を超え、家屋の被害は半壊・全壊あわせて25万棟にも及びました。この災害に際して多くのボランティアが全国から集まり、被災者の救援に活躍しました。これをきっかけに「災害時におけるボランティア活動及び自主的な防災活動について認識を深めるとともに、災害への備えの充実強化を図ること」を目的として防災とボランティアの日が定められました。

図書室では災害関連の本をたくさん所蔵しています。この機会にぜひ読んでください。

防災



背表紙の
このマー
クが目印

1月生まれの作家たち

1日 角野栄子(1935)	12日 村上春樹(1949)	19日 森鷗外(1862)	27日 ルイス・キャロル(1832)
4日 J. グリム(1892)	13日 阿刀田高(1935)	20日 有吉佐和子(1931)	28日 小松左京(1931)
5日 夏目漱石(1867)	14日 三島由紀夫(1925)	22日 バイロン(1788)	29日 チューホフ(1860)
5日 安房直子(1943)	15日 今江祥智(1932)	22日 椋鳩十(1905)	29日 ロマン・ロラン(1866)
8日 堀口大学(1892)	16日 伊藤整(1905)	23日 スタンダール(1783)	30日 長谷川町子(1920)
9日 ポーボワール(1908)	18日 ミルン(1882)	23日 ピアス(1920)	31日 大江健三郎(1935)
10日 山村暮鳥(1884)	19日 ポー(1809)	25日 北原白秋(1885)	

言葉の魔術師 北原 白秋（1885～1942）

北原白秋(本名・隆吉)は明治 18(1885)年福岡県の異国情緒が漂う水郷・柳川の酒造業を営む旧家に生まれた。蔵書家だった祖父の影響をうけ、伝習館中学時代から雑誌『文庫』に短歌や詩を投稿し、河井醉茗かわいすいめいに認められる。1904年早稲田大学に入学。若山牧水らと出会った。中退後与謝野鉄幹の「新詩社」に入り雑誌『明星』で活躍した。『明星』廃刊後は森鷗外の観潮楼歌会に参加。1908年には自由奔放な文学サロン「パンの会」を結成した。1909年と1911年にそれぞれ詩集『邪宗門』『思ひ出』を刊行し、象徴詩運動を進めた。1913年に歌集『桐の花』を刊行、短歌にも象徴詩の手法を使った。この頃、白秋自身は実家の破産や恋愛問題から対外的にも経済的にも苦しい立場にあり、転居を繰り返したが、そうしたなかでも創作に打ち込み1921年にはこれまでとは違う閑寂の境地をうたった歌集『雀の卵』を出した。その後は日本の伝統的な幽玄と象徴主義をもとにした短歌を数多く発表した。一方で1918年に鈴木三重吉が児童文学雑誌『赤い鳥』を創刊すると、童謡部門を担当し、「あめふり」「待ちぼうけ」「からたちの花」など多くの名作を残した。1942年11月2日病気のため死去。多磨霊園に眠る。

きて！みて！よんで！

皆既月食を観察できるかな。

1月31日の夜、皆既月食が起こります。20時48分頃から部分食が始まり、そして21時51分頃からは皆既食が始まり、23時8分頃、皆既食は終わり、0時12分頃いつもの満月に戻ります。この日、晴れたら、地球の影に入り込んで赤銅色になった月を観察してみてください。寒いので風邪をひかないようにご注意ください。今回の月食について詳しくは、国立天文台のHPなどをご覧ください。今年度、月をテーマとした『月学』（稲葉茂勝 著 今人舎 446/イ）という本を購入しました。日本では1873年に太陽暦が採用されるまで、太陰太陽暦をつかっており、日々の暮らしは月とは切り離せないものでした。ですからこの本では、科学的なことはもとより、文学のなかでみられる月など、さまざまなことが書かれています。もちろん皆既月食についても。

まだまだ続くパンダ人気

パンダについて詳しくなりたい人はもちろん、
赤ちゃんパンダに癒されたいあなたもぜひ！

『パンダ ネコをかぶった珍獣』

倉持 浩 著 岩波書店 489/ク

表紙に「ついに正体がバレる時がきた。」「禁断の素顔大公開」とありますが、著者は上野動物園のパンダの飼育員さん。私たちが知らないパンダの生態からパンダを取り巻く社会現象まで、読み応え満点です。

『ぱんだだ！ 中国・日本パンダ紀行』

大田垣 晴子 著 文藝春秋 195/オ

なぜかパンダにひきつけられて…と、イラストレーターの著者が中国と日本のパンダを訪ねた紀行文（コミック）。'07年出版なので、資料としては古いですが、かわいいパンダの写真に目じりがさがりっぱなし。

今年は明治維新から 150 年

今年は明治維新から150年で、NHK大河ドラマも維新の立役者・西郷隆盛が主人公の「西郷どん」。原作は林真理子さんのドラマと同名の『西郷どん』（全3巻 KADOKAWA 913/ハ）です。激動の時代を駆け抜けた西郷隆盛の生涯を息子・西郷菊次郎が語るという形で書かれており、読みやすいです。

そして、もう一冊。『西郷の首』 伊東 潤 著 KADOKAWA 913/イ

タイトルに西郷とありますが、西郷隆盛はほとんど登場しません。実在した加賀藩の二人の青年の目から見た激動の時代の物語。幼馴染みの二人ですが、維新後、一人は自分を見失わず不器用ながらも周囲に引き立てられ、軍人としてキャリアを積んでいき、もう一人は才あるがゆえに、時代を憂い、反政府活動に身を投じ、やがて…。別々の道を選んだ二人でしたが、その友情は美しく、そして哀しい。武士の世の終焉を描いた歴史小説。

読書で時間旅行！

『戦国時代のハローワーク』

榎ライブ 編著 カンゼン 210/セ

戦国時代というと戦乱の世の中でまるで武士しかいなかったような錯覚を起こしますが、この時代になると、職業も様々なものに細分化されていたようです。どんな時代も人は生きるために働いていたのです。読むと戦国時代が生き生きとしてきます。

『勇者はなぜ、逃げ切れなかったのか』

田所 真 著 くもん出版 210/タ

副題は、「歴史から考えよう『災害を生きぬく未来』」。表題の勇者は、千五百年前の榛名山の噴火で火山灰に埋もれて亡くなったとされています。この本は遺跡にある自然災害の跡を探ることで、減災や防災につなげようという調査やその研究を紹介しています。

『ひらけ蘭学の扉—『解体新書』をつくった杉田玄白と蘭方医たち』

鳴海 風 著 岩崎書店 289/ス

小浜藩の藩医の家に生まれた杉田玄白は、病で苦しむ人をたくさんみていたので、病気の原因を知り、治療を見つけたいという思いが強く、医学の進歩のために、同じ志を持つ仲間と、オランダの解剖書を、苦勞をして翻訳し、『解体新書』を出版しました。

『まるまるの毬』

西條 奈加 著 講談社 913/サ

南星屋は江戸・麹町にある人気の菓子屋。店は、諸国を巡って各地の菓子の作り方を会得した主の治兵衛と娘のお永、孫のお君の三人で切り盛りされている。南星屋は店の看板となる菓子はなく、その日その日で季節の菓子が二、三品並び、売り切れると店じまいとなる。心温まる時代小説。

『ファニー 13歳の指揮官』

ファミー・ベン＝アミ著 岩波書店 929/ベ

1943年のフランス。ファニーはユダヤ人で13歳。三姉妹の長女でしっかり者。当時、フランスでもユダヤ人に対する迫害は強まっていた。そんな時、子どもたちを中立国のスイスに逃がす計画があり、ファニーたちも加わるが、その危険な旅の最中、引率の青年が逃亡。彼女がリーダーとなり…。これは実話。勇気ある少女と彼女を支えた人々の物語。

『賢者ナータンと子どもたち』

ミリヤム・プレスラー著 岩波書店 943/ブ

18世紀に書かれたドイツの戯曲で、宗教の違いを乗り越える人類愛を説いた『賢者ナータン』を、ドイツ在住のユダヤ人作家が、現代の若者にも読みやすくリメイク。舞台は、最近、国際問題となっているエルサレムで、時代は12世紀。世界が揺れている今こそ、この物語を読んでみませんか。

今年も本とのすてきな出会いがありますように…。図書室でお会いしましょ